



遣伯使見聞録



Chuva de graça

(恵みの雨)

日本は雨で大きな被害があったり、大会やお祭りの延期があったりして大変ですね。こちらパラナバイでは久しぶりに雨が降りました。やせ細ったマンジョッカ（キャッサバ）や草が足りない牛たちにとっては、「恵みの雨」となりました。他にも、洪水の国もあれば、干ばつの国もある。地球上の水のバランスは、むずかしいですね。



19 10月22日(火) ROTARY ARENITO 学校訪問(全日制) ⇔ 松葉小学校

ソランシア校長(3年目)

- 児童数 205人
(特別支援 1人)
- 教員数 15人
- 学級数 8学級
- IDEB 7.0

【校長先生の話】

子どもたちのために校舎を大きくしたり、体育館を造ったりしてほしい。そうすれば体育館を休日に地域に開放したいと考えて

いる。子どもも先生たちも居心地の良い家族みたいな学校になっている。先生たちは教え方を工夫し、テストを行い、それによって教え方の改善を行っている。

★来年用の体操服やカバンが届きました。パラナバイはこれらを毎年全員に無償で支給しているそうです。このお金を〇〇に使ったらいいのに…とってしまいました。



校長先生がすねてしまった子を諭しています。



来年度の体操服とカバン

「音」で見る!? フラジルの学校と人【トピック話】その6

⑥「音」の話

基本的に発せられる声も音楽も音量は大きめです。「音」について、感じたことをまとめてみました。

- ★子どもたちは教室で手を挙げずにいきなり話し始めます。元気はありますが、聞き取れません。中には、日本のように手を挙げて発言し、他の子は黙って聞くことができるという学校もありました。発言とおしゃべりがごちゃごちゃになり、それに負けないくらい先生も声を張り上げるので、大変な状態になります。パワーをハイパワーで制しています。
- ★そんな授業になるからか、チャイムはサイレンです。自分は初めて聞いたとき「避難しないといけなかい!？」と思ったほどです。では、避難訓練のときは?という、そのサイレンを少し長めに鳴らすそうです…なんじゃそれは?それでいいのか?避難できるのか?と思いました。
- ★街を歩いていると、いろいろな店からは威勢の良い…?いや、うるさい音楽や大声のMCが流れてきます。落ち着いて買い物はできません。



★先日行った「先生の日」のパーティーのBGMはノリノリの洋楽を爆音で流していました。隣の人との会話は、耳元で大声で話すしかありません。二回言わないと通じません。

★雷が鳴る日がありました。「日本の子たちは、雷が怖くてへそを隠すんですよ(もうそんな子いませんか?)」すると「ブラジルの子は、雷が鳴ると興奮して、もっと大きな声を出すんですよ」と言われました…。

最近、日本の子どもたちは声が小さくて何言っているかわからんって思うことがあります。ブラジルとの中間がちょうどよいと思いました。

ナッツ納豆 ～ナッツコラム～

パラナバイの日本食材屋さんで見つけた「ナッツ納豆」。とうとうナッツは納豆になってしまった。日本語表示の食べ物を見て、すごうれしそうだったね。ところが、値段は4バックで26.6レアル。日本円で、約700円。ナッツ納豆は高級品ですねえ!(ナッツの腕時計より)

